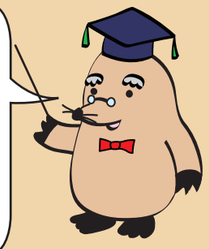
おもな出土遺物

縄文時代早期の押型文土器

縄文時代晩期の突帯文土器（左）・浮線文土器（右）

飛鳥～奈良時代の須恵器

縄文時代晩期の突帯文土器は西日本、浮線文土器は東日本に多く分布する土器じゃ。
この両方が中野山遺跡で出土したことは、この地域（三重県北部）が当時も東西文化の接点であったことを感じさせるのじゃ。



モグ博士

調査の成果

今年度の中野山遺跡の調査では、縄文時代早期の煙道付炉穴が79基、集石炉が10基みつかりました。これまでの調査と合わせると、煙道付炉穴は136基、集石炉は25基となり、県内最多例となります。煙道付炉穴の集中する場所は調査区の西側と北東側の２カ所あり、西側のものは比較的小型で浅く、平面形は楕円形をしているものが多く、北東側のものは比較的大型で深く、平面形は二等辺三角形に近いものが多くみられます。煙道付炉穴は時期が新しくなると小型化する傾向がみられるため、この違いはおそらく作られた時期の違いによるものと思われますが、今後、出土した土器等を詳細に検討することでより明確になるでしょう。また、規模や形状の異なる炉穴がほぼ同じ場所に作られていることは、炉穴を伴う文化が県内および国内にどのように広がっていったのかを知る上でも重要な手がかりといえます。

中野山遺跡でもう一つ重要な発見が、飛鳥～奈良時代の集落跡の遺構です。これまでの調査でみつかっているものも合わせると、竪穴住居が88棟、掘立柱建物が103棟となり、当時の集落が、この丘の全域に広がっていることが分かりました。建物跡の分布をみると、大きく２～３カ所程度に分けることができます。今後、建物の間隔や並ぶ方向などを検討することで、さらに詳細な単位に分けることができると思います。当時の北勢地域の集落の様子や人々の暮らしぶりを考える上で重要です。

中野山遺跡第11次発掘調査　現地説明会資料（新名神高速道路発掘調査ニュース「新あさけのいにしへNo.13」）
三重県埋蔵文化財センター　〒515－0325　三重県多気郡明和町竹川503
TEL：0596－52－1732 / FAX：0596－52－7035　http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/maibun/
四日市整理所　〒512－8064　三重県四日市市伊坂町 126－1
TEL：059－363－3195 / FAX：059—363—3196
2013年10月５日

新名神高速道路建設事業に伴う

中野山遺跡

第11次発掘調査　現地説明会資料

2013年10月５日
三重県埋蔵文化財センター

①集石炉

②

焼けた石がたくさん入っています。掘削すると大きめの石が並べられていました。また、②のように大きな木炭が残っているものもありました。

③煙道付炉穴

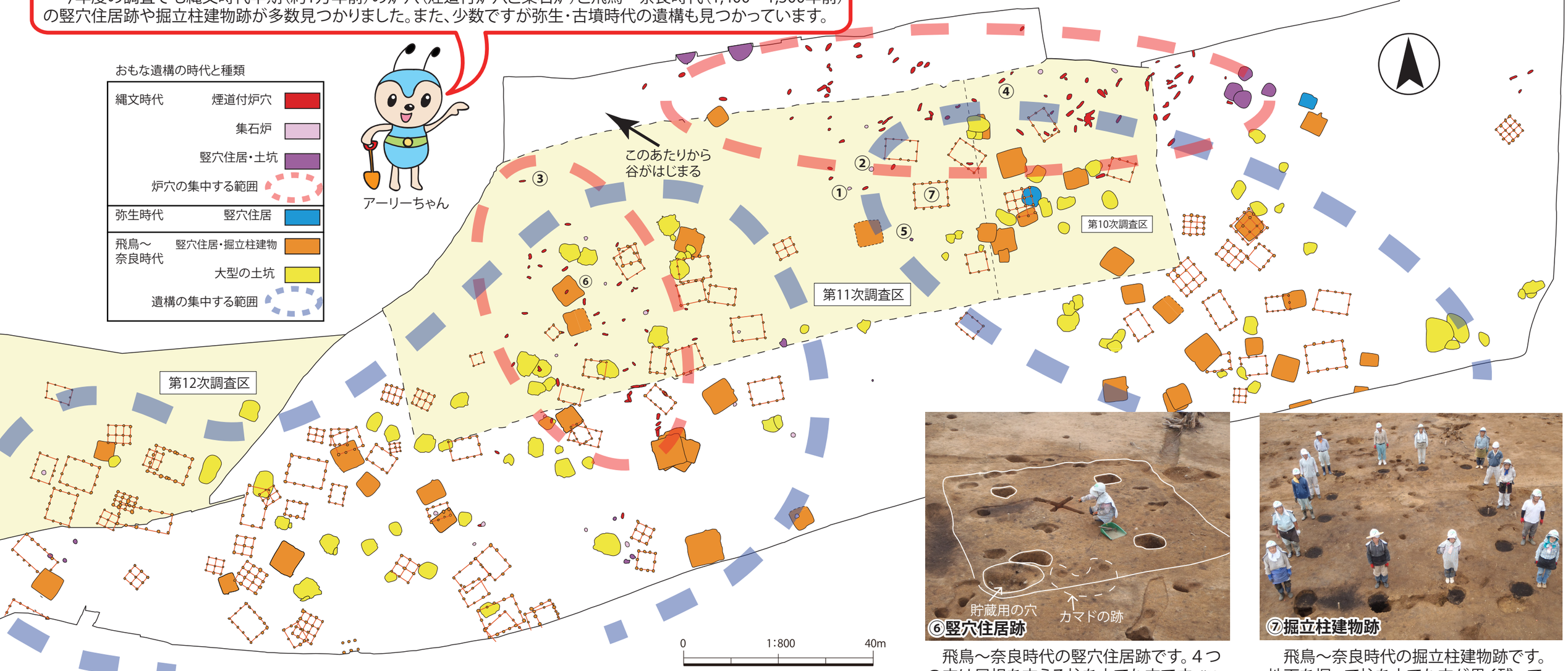
④煙道付炉穴

煙道付炉穴が集中する場所が2カ所あり（図中の赤い破線の範囲）、西側のものは③のように小さいものが多く、北東のものは④のように大きいものが多いようです。

⑤埋甕

縄文時代晩期（約2,500年前）の遺構も少数ですが見つかりました。⑤は甕を使った埋葬の跡です。

今年度の調査でも縄文時代早期（約1万年前）の炉穴（煙道付炉穴と集石炉）と飛鳥～奈良時代（1,400～1,300年前）の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が多数見つかりました。また、少数ですが弥生・古墳時代の遺構も見つかっています。



⑥竪穴住居跡

飛鳥～奈良時代の竪穴住居跡です。４つの穴は屋根を支える柱を立てた穴です。指し示しているのは、縄文時代の炉穴です（調査のため十字に掘ってあります）。

⑦掘立柱建物跡

飛鳥～奈良時代の掘立柱建物跡です。地面を掘って柱を立てた穴が黒く残っていました。